

持参薬確認で自己判断による重複投与を発見

プレアボイドとは薬学的ケアから患者の不利益（副作用、相互作用、治療効果不十分など）を回避あるいは軽減した事例を意味します。今回は病棟業務を通して得た情報を元にしたプレアボイド報告を紹介いたします。

患者背景

Aさん

- ▶前立腺生検目的で入院
- ▶糖尿病の既往あり、他院で薬物治療中



薬剤師が持参薬の確認に訪室

患者 Aさん



Aさん、お薬の確認をさせてくださいね。
今日持って来られたお薬はすべて今飲んで
いるお薬ですか？

そうよ、糖尿のおくすりよ。

おくすり手帳確認させてくださいね。
スイニー®からオングリザ®に変更になっ
ていますね。スイニー®は持ってきていま
すが飲んでないですよ？

いやあ、それも飲んでるよ。
家に糖尿のお薬が余分にあったけん、飲ん
どいた方がいいかなと思って。
低血糖はなっとらんよ。



医師・看護師へ情報提供

本日入院されたAさんの持参薬を確認したところ、中
止になっていたスイニー®を自己判断で飲まれていた
ようです。
低血糖は起きていませんが、切り替えたオングリザ®
も DPP-IV阻害剤で薬効重複していますし、スイニー
は中止が必要と思うのですが。



看護師

医師



スイニー®は中止にする旨、お話しします。

持参薬確認でお薬手帳を用いて過去の服用歴も確認するこ
とで自己判断の服薬による重複投与を回避し副作用発現を
回避できた。